

# 求められる医療を提供し

## 人が集まる病院に

シリーズ  
働き方改革  
医療法人社団喜生会  
新富士病院

きじま かねお  
木島金夫 病院長



1986年獨協医科大学医学部卒業。同大学病院、福島県立大野病院内科外科統合格部長、森町国民健康保険病院内科医長、医療法人社団喜生会新富士病院副院長などを経て、2017年から現職。

一般病床104床、療養病床102床の計206床で、救急・急性期から慢性期の患者を受け入れる「医療法人社団喜生会新富士病院」。木島金夫病院長は、「病院として力を発揮するには、医師を含む職員の健康が欠かせない」と語る。取り組みと思いは。

### 貴院における医師の働き方改革について

2017年に院長になってから、「医師の休養」についてはできる範囲で、できる限りの対応を進めてきました。私自身が長年働く中で、医師が適切に休養を取り、良いコンディションでいることの大切さを感じてきたからです。

まずは、医師のフレックスタイム制を導入し、検診

### 働き方改革の取り組み

- ☑ フレックスタイム制、週1当直を導入
- ☑ バックアップできる医師を複数用意
- ☑ コミュニケーションの円滑化

で早く勤務を開始したら、その分、その日は早く勤務を終えてもらうなど、柔軟に対応できるように変更しました。当直も週1回を基本とし、それより多い回数にならないようにしています。また、当直明けは午後3時までは勤務を終えてもらうよう指示しています。

国が「医師の働き方改革」について取り組みを始めてからは、当院も宿日直許可を取得し、医師の派遣元である大学に、取得済みであることをお伝えしました。

当院には私を含めて6人の常勤医がいます。当院の特徴の一つは、総合診療科の医師だけでなく、内科、外科、整形外科、脳神経内科などの医師全員が総合的に診療できる力を持っていることです。医師の数自体は多くありませんが、医師に何かあった場合の第2、第3のバックアップ医師を決めておき、バックアップの医師でも処置や治療の指示を出せるようにしておくことで、医師が休める体制

と、患者さんが困らない状態の両立を図っています。

体制面以外で、医師の心身の健康を守るために大切に行っていることの一つが、「コミュニケーション」です。仕事によって心身共に追い詰められていくことがないように、医師同士が頻繁に会話を交わし、相談したり、時には愚痴を言ったりして、一人で考え込んだり、抱え込んだりしない環境をつくりたい。勤務時間を制限するのも必要ですが、きつい時に話ができる雰囲気を目指して、私もフランクに話をするようにしています。

### 地域の医療提供体制を維持するための工夫は

富士市の平日夜間の救急は、市救急医療センターが午後7時から翌朝8時まで、内科・外科・小児科の1次救急を担い、基幹病院の富士市立中央病院が2次救急を一手に引き受けています。慢性期救急、いわゆる高齢者救急の機能を備える当院では、平日が午前8時半

から午後5時、土曜は午前11時半まで救急を受け入れており、受け入れ数は年間200件ほどになります。

今後は、平日、救急医療センターが開く午後7時までの時間外救急の受け入れを検討しており、より地域の救急医療も助けになれるよう努力していくつもりです。

働き方改革などの影響で基幹病院が機能しなくなる可能性がある、大きな問題です。どの程度カバーできるかは分かりませんが、基幹病院には2次以上の救急患者さんだけが運ばれる状況をつくり、基幹病院における医師の働き方改革を後押しできるように、地域の開業医の先生方も含めて、検討したいと思っています。

働き方改革の推進でも重要な人材確保。そのための施策は。

地域で必要なことをやり続ける。結局は、それに尽きる気がしています。救急や急性期で受診した患者さんは、治して自宅や施設にお返しする。慢性期の患者さんには最期まで寄り添う。それを続けることで、「そのお手伝いをしよう」という医師らスタッフが集まってくれると思っています。

高い給料も魅力ですが、地域に貢献する評判の良い職場であることも、選ばれる大事な要素です。地元で必要な医療を提供し、その結果、人が集まるというのが、遠回りなようで一番、確実なのではないでしょうか。



医療法人社団喜生会  
新富士病院  
静岡県富士市大淵3898-1  
☎0545-36-2211(代表)  
<https://shin Fuji.or.jp/>  
206床